

「分散型」文化祭楽しむ

ICT駆使し中継

いすみ市の県立大原高校（生徒360人、小高健志校長）の文化祭が開かれ、ネット回線で生中継した歌やダンス発表の様子、クラスごとに制作した動画を生徒たちは体育館や教室に分かれて視聴し、ICT（情報通信技術）を生かした分散型で文化祭を楽しんだ。

いすみ・大原高



新型コロナウイルス感染防止のため一堂に集まることや飲食提供ができないための対応。同市の地域商社「SOTOBO ISUMI」が中継技術を提供した。

クラスが一つになる取り組みとして、全16クラスごとにおよそ5分の動画を制作。企画、出演、スマートフォンなどによる撮影、編集まで生徒が行い、面白動画やミュージックビデオ風、クラス一人一人の成長を写真で振り返るものなどさまざま。生徒たちから笑い声や拍手が起きた。

本物の映画予告と見まがうほどの完成度の高い動画もあり、3年F組は人気韓国ドラマ「イカゲーム」のシーンを忠実に再現した。撮影3時間、完成まで2週間。関竜太さん（18）が自前の機材で撮影・編集した。学級委員の渡辺翔真さん（18）は「みんなで楽しい時間を過ごすことができ、良い思い出の一つになった」と高校最後の文化祭を楽しんでいた。

クラスごとに制作した動画が上映された大原高の文化祭。いすみ市